

新刊案内



からかさにごえもん
最上一平



ことりのおそうしき
マーガレット・ワイズ・ブラウン

はじめての哲学 ----- 石井郁男
 中欧の詩学 ----- ヨゼフ・クロウトヴォル
 中高年がキレル理由 ----- 榎本博明
 脳はなにげに不公平 パテカトルの万脳葉 -- 池谷裕二

羊毛フェルトの愛らしい小鳥 ----- 須佐沙知子
 フラワーアレンジギフトデザイン図鑑300
 ----- フローリスト編集部
 日常会話の英語ディスカッション --- ニコラス・ウー
 ねこのほそみち 春夏秋冬にゃー -- 堀本裕樹、ねこまき



「構造から見る 戦う城」

今年の大河ドラマのタイトルである『真田丸』は、大阪城の外側に作られた出城の名前です。出城というのは本城を守るために作られた要塞のような城のことです。真田丸や大阪城以外の城も、築城方法・建設場所などにあらゆる工夫を凝らして敵から自国を守るうとしていきます。今回はそんな城の構造に関する本を紹介しましょう。

萩原さちこ『図説・戦う城の科学』。要塞としての城全盛期の戦乱の時代、守りやすく攻められにくい城を築城するため、技術の粋が集められました。時代とともにその技術が改良、変化していく様子を追いかけてみます。

西股総生『城取りの軍事学』。全国数万カ所もある戦国の城は、なぜこれほど多いのか。「城取り」という言葉が「城攻め」を指さないならば、それは一体何を意味するのか。こうした城郭論を、縄張り分析の手法と軍事学の視点から解説します。

松岡進『中世城郭の縄張と空間』。土の城が語るもの。日本の城郭における曲輪や堀、門、虎口などの位置取りを「縄張」と言います。その縄張についてなされた長年の研究成果を根本から見直しつつ、軍事的・社会的段階の変化をたどっていきます。縄張図の書き方についても紹介されています。

8月の休館日

1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、
26日(金)、29日(月)

開館時間

火～金曜日 午前10時～午後7時
土・日曜日、祝日 午前10時～午後5時

お知らせ

8月末まで課題図書貸し出しは、1人1冊1週間(予約不可)の制限を設けています。なるべく多くの方にご利用いただくため、ご協力をお願いします。